

サポティクッションで快適な姿勢づくり

なちゅはによるポジショニング実演



身体の間隙を埋めるようにサポティクッションを使い、体圧を分散

ユーザーごとに適切なポジショニングを行うことで、重度化や二次障害を防ぐことができる」と説明。同品は身体との接触面が大きく、高いフィット感が特徴。しっかり身体を支えることで、筋緊張を和らげる。

クッションの中材

イノアックリビング(東京都品川区、神谷秀幸社長)は、床ずれや拘縮ケア、姿勢保持をサポートするポジショニングクッション「サポティクッション」を用いた、ベッドと車いす上でのポジショニングを実演した。講師を務めたナチュラルハートフルケアネットワーク(なちゅは)理事の福島寿道氏は「利

ショニングについて、「私たち

は日頃寝ている時も、無意識に動いて寝心地のよいポジショニングを探している。身体を動かしたり人は適切な体圧分散ができなくなるため、介護職が圧抜きと適切なポジショニングを行うことが重要」と強調。

関節の柔軟さが低下して足が曲がっている場合は、ベッドと身体の間隙にクッションを入れて足全体で体重を支えたり、背骨が曲がっている

場合は肩甲骨が浮かないようクッションを使って上半身を支えるなど、「隙間を埋めながら重心を分散させることを意識してほしい」と呼びかけた。



背中やお腹の前にクッションを使うことで、身体を支える

車いすでのポジショニングでは、身体が前方に傾くのを防ぐため、前から大きな三日月型のクッションを抱えて腕を乗せることで正しい姿勢を維持。麻痺がある場合は麻痺側の腕や脚の下にクッションを入れることで、緊張がほぐれて活動しやすくなると説明した。

「これらのクッションは身体を動かしたり重度者だけでなく、姿勢悪化を防ぐために、自立の人にも有効。自身で快適な姿勢を維持することで重度化予防にも繋がる」と話した。

問合せは同社(☎050・31365・88567)まで。